



サカタニ友の会ニュース

72回目の 敗戦記念日

1945年(昭和20)8月14日、当時、国民学校6年生で、祖父父の代まで住んで居た宇治山村の炭山に、縁故を頼り学童疎開中だった。が、祖父の病気が重く自宅に戻っていた。翌15日朝、町内から、正午に天皇陛下の重大なお言葉が放送されるので、必ず聴けとの通達があった。ラジオは店先があり、祖父は、床から離れられず、私が聞き、知らせる段取りだった。がお言葉は、6年生の私は、異常事態とは思ったが、難しい言葉も多く意味が判らず、仕方なく近所の新聞屋さんに、内容を聞きに行き、日本の敗戦を知り、祖父に伝えた。



祖父は、天皇陛下様が、お可哀相。私らの力が足りなかつた」と、既に病気で見えなくなっていた目から、ぼろぼろ涙を流した。明治人間の祖父は、自らの20歳時、兵隊検査で、身体が弱く、兵役免除された事を、常に悔やんでいた。当時は、兵隊になれない男は、屑と言われる時代だった。そして、9月1日朝、

発行者
株式会社サカタニ 集
西条サカタニ
ファミリーマート
サカタニ二京阪七条店
〒605-0993
京都市東山区日吉町222
(七条こころ坂)
TEL・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
E-Mail info@sosake.
月刊 発行会員新聞
編集 酒谷 義郎
E-Mail yosirou@sosake.jp

備後業」が強制され酒屋は激減した。我家は酒屋で残ったが、整備委員になつていた祖父は、廃業される店が可哀想だと嘆いていた。同時に、酒屋と酒場兼業禁止になったが、運良く購入していた東隣の家を、酒場に改造、当時の一番番頭 新吉との嫁に姪を世話し、飲屋営業を任せられた。が、開店直後、彼が兵隊に招集され、外地で戦死。嫁を美家に戻し、祖母が店主、営業は続けた。その頃、昭和20・21年、近頃の馬町爆撃有り、道路拡張の建物強制疎開(学童疎開)が始まった。祖父も強制徴用で、中国地方の、西炭炭坑に行き、肺を侵され倒れた。更に戦況悪化し、酒屋は細々継続していたが、酒場は閉鎖。祖父も没した。

父は、兵役で、三重県陸軍明野飛行学校で、軍指定資材調達部の仕事に終戦を迎えた。軍の指令が止まり、米軍に没収される前に、部分分配となり、帆布や蟹缶、ドラム缶入りエチレールロールを軍用トラックで持帰り、店の干蔵で保存した。祖父が没した敗戦直後、物流カタガタになつて、その品と、葬儀に必要な物とを交換して、終戦直後だったが、立派なお葬式が出来た。後、昭和24、酒卸の免許を得た時、開店記念品で、酒小売店にお配りした酒展袋(写真)は、その帆布を父が、今も著名な「澤帆」も私が使用中。

第3日曜日開催日7月16日(定例:朝9時)
第150回:朝粥食べておシャベリ会
ご講演:藤田浩之様(報告者) 高木英智様

本日のご講師は、**レジェンド・シニア京都府連統括官 藤田浩之様**。テーマは「レジエンス」何？本日の朝粥会を記念すべき第150回目「冒頭に酒谷宗男さんから長く続けてこられたもの、毎回参加いただいた皆さんのおかげとお礼の挨拶がありました。そして特別1時間バージョン。テーマの地域社会のレジエンスのお話。レジエンスとは耳慣れない言葉ですが、あらゆる事象、ダメージに対して、粘り強さをバネに現状以上の復帰を可能とする仕組みのこと。京都市は日ソクフラー財団が推進するレジエントシティという世界的な取組に日本では富山市とともに選

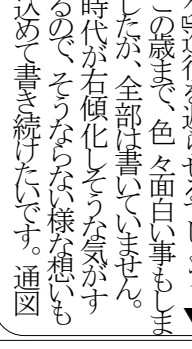
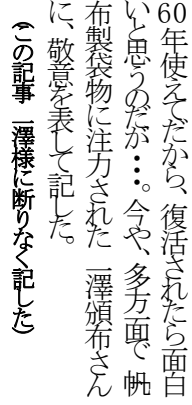
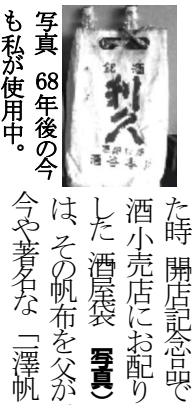
市とともに選ばれ、あらゆる自然災害やテロ、サイバー攻撃といった混乱等に耐え、可能な限り早急に加者少なく、沢山お粥が残りに復旧し、また、少子化対策を含めた人口減少社会への取組など、都市の持続性の追求などにより、より強靱になっていく都市づくりに取り組まれています。日本は低成長で少子超高齢社会。モトは豊かですが、勝ち組も負け組も幸せ感がありません。安心して子育てできる家庭の在り方に着目し、地域社会全体で子育てを支援し、地域の子どもも地域で育てる、自然にも社会にも人にも優しい生活の実現に向けて活動されます。京都100年の歴史はまさにレジエンスの繰り返し。暮らしに息づく文化力を備え、祭礼や伝統文化を継承してきました。教育委員会、右京区長、副市長を歴任、京都を知り尽くした藤田さんが推進されるレジエントンティ活動は京都をより素敵な街と導かれます。講演の合間のピアノ演奏も素敵でした。

▼わが社の主要な商売は、フアンマ24時間、年中無休のコンビニです。42才から始めて今や83歳になりました。年齢の割には、今も一応元気です。▼このとんからりんの入力は眼鏡なしで、殆ど私が、記事入力をしていきます。学生時代に勉強嫌いで、眼を酷使しなかつた成果でしょう。▼目は良いのですが、50年前の事を今でも覚えてるのに、先程まで使った。を探索する事。最近では、記憶力が低下して来た様です。何度もチタクしながらも少し頑張ります。▼最近では、ちゃんを付けて呼んで、掛けたがえの無い友人が相継いで亡くなりました。顔を会すだけで、元気を貰った友だつたから、ショックが大きい。▼でも、気落ちばかりしていても友は喜んでくれるだろう。土産話を沢山持つて行きたいから、当分呼びに来るなど厳命しつつ吹っ切ります。

布さんや時、主として店頭の手洗い用を製造されてきたに持込み、無理にお願いで、酒袋と折畳財布を創って戴いた。お配りした酒販店も喜んで使つて戴きました。今や、清酒の1.0瓶詰は、今や極僅かしか売れないので、酒屋用としては不要か、今も使っている私にとって、ガバツトいろんな形態のものを、ほり込んで運べる、極めて便利な袋だ。見た目も、そう悪くはない。帆布製が60年使えてだから、復活されたら面白と思うのだが...今や、多方面で帆布製袋物に注力された「澤帆布」さんに、敬意を表して記した。(この記事「澤帆」に断りなく記した)

毎月七日：恒例：**七条大橋をキレイにする会**
◎日時：八月七日(月)
◎集合：七条大橋 東詰南
作業時間 AM9時～10:30
◇掃除用具：手帚、雑巾、小さいスコップ等
各自ご持参等ご持参ください。
◇終了後 集西条
サカタニにて 小一時間程お茶を飲み反省会
写真・毎回ご参加の 酒協力中の フリーパッドのお入様

「どん」(き) びです。8月号VOL.215号。作成が手間取り、お届が若干遅くなりました。読者の皆様、ご投稿を下さった方々、お許し下さい。▼わが社の主要な商売は、フアンマ24時間、年中無休のコンビニです。42才から始めて今や83歳になりました。年齢の割には、今も一応元気です。▼このとんからりんの入力は眼鏡なしで、殆ど私が、記事入力をしていきます。学生時代に勉強嫌いで、眼を酷使しなかつた成果でしょう。▼目は良いのですが、50年前の事を今でも覚えてるのに、先程まで使った。を探索する事。最近では、記憶力が低下して来た様です。何度もチタクしながらも少し頑張ります。▼最近では、ちゃんを付けて呼んで、掛けたがえの無い友人が相継いで亡くなりました。顔を会すだけで、元気を貰った友だつたから、ショックが大きい。▼でも、気落ちばかりしていても友は喜んでくれるだろう。土産話を沢山持つて行きたいから、当分呼びに来るなど厳命しつつ吹っ切ります。



なんた坂 こんな坂

前号より更に遡るが、幼稚園から小学校一年生の二月迄、友達等には、お母さん、父さんが居るのに、僕には両方居ない、何故かなあと不思議に思っていたが、突然、番頭と思ひ、メシメシと呼んでいた人(平)が父病気で実家で養生していた母が、その実家から、我が家に戻つて来ると、奥座敷の、お佛壇の前で、祖母から聞かされ、やっぱりお母さんは居たんだよ！と嬉しかった。数日後、私の子守役の丁稚の政はんが、お母さんの家に連れて呉れた。

そは、御幸町ある漆屋。直ぐに庭先に案内され縁側で、女の人に会い、その人から義ちゃんか？と声を掛けられた。店の人、近所や学友らは、独特のイントネーションで、私は「シロウさん」と呼ばれていて、義ちゃんには戸惑いを感じた。が、続けて「マテはお母さんや、こつちかおいで！」と両手を広げられたので、夢中で「おかあさん。」と叫び飛びつく様に抱き付いた。お婆ちゃんとは、違い、良い香りがした。その人は、義ちゃん、ウチの病気で淋しい、想いさせて堪忍してや。これからは絶対離なさないよと、息が苦しい程の力で抱き込まれた。僕も、お母さんがいた嬉しきで涙が止まらなかつた。昭16年3月5日。私の満7歳の誕生日前日だった。そして翌年、妹多美子戦後に、紀代子、宗男が出来た。我が父は、弟妹の名前も私に「案」を出させ決める非家庭的な人。だが、人様とのお付き合いは極めて

上手な人、特に「女性」との付き合いが。戸籍上で3人の女性と認知した子がいる。私の知る限りで片手以上の女性と関係があった。個人名で酒問屋時代の父と同年代の店員さんに何故だろうかと質問した。旦那さんは弓削の道鏡じすさい」との答えが返つて来た。以後、女性関係で悩むのを辞めた。歳をとれば何れ治まると思つて「正解だった」晩年は、戸籍に入れた3人目の妻とその子、私や弟に見守られて、63歳で亡くなつた。葬儀は、長男の私が喪主で、祖父が酒屋を始めた現在地で取行した。当時、私は家庭の事情も有り、弟もいるので、酒屋を引継ぐ心算は全くなく、家を離れ、南山城大水害地、井手町、木津川堤防の小屋に住み込み、昼は救援、夜は、被害者同盟組織化や政治活動に専念していた。

稲荷山 ぶらり散策記



越智叢史

深草坊町に深草山と号する日蓮宗の瑞光寺がある。元政庵とも呼ばれている。竹藪を背にした茅葺屋根の本堂は深草一の風情がある。私はこの寺の風景が好きで散歩で良く立ち寄る。特に春、枝垂桜の咲くころは狭い境内ではあるが華やかである。堂内中央には日蓮上



深草坊町に深草山と号する日蓮宗の瑞光寺がある。元政庵とも呼ばれている。竹藪を背にした茅葺屋根の本堂は深草一の風情がある。私はこの寺の風景が好きで散歩で良く立ち寄る。特に春、枝垂桜の咲くころは狭い境内ではあるが華やかである。堂内中央には日蓮上

咲いてますか？

石動敬子
2017.7

はい、どうぞ！
で足る植
物園通い
の真只中である。砂漠・サバンナ植物室へ向かう。七月末から三週間余り、朝七時半から一時間の無料開放が嬉しい。今日は確信があった。前日仰ぎ見たつぼみが膨らんでいたからである。
小雨がぱらっと来ていっそう蒸し暑かったが観覧温室に入ると、ぐっと涼しい部屋。例えば、高山植物室)もある。が、バオバブの花が咲くその部屋は今どきの京都(30℃)に近い。真っ白なシルク

カル島でのこと。こちらでは、結ばれて緑の蕾になるよう、花粉を筆で？と聞いたが、水をやると早合点して咲こうとする繊細さゆえ、ころあいの応答も難しいのだとか、係のお姉さんが言つてられたが、日々の世話があつてこそその笑顔におおきにと頭が下がった。
日本の夏はまさしく「亜」熱帯だが、数年前、日本でも稀なこの花に出合つて以来、この街の酷暑も喝采の日々とも思っている。
この花はまた、星の王子様」に出て来る、かの薔薇の花を思わせる。美しくわがままなその花は王子様をとりこにしたが、同時にとても困らせてしまう。愛することにはたゆまぬ世話が付きまとう。バカンス帰国している歳暮歳の姉妹にお仕えてひと月の婆ちゃんも、それで、くたびれてる。あ、その母、次女も薔薇だし、近く住む長女も薔薇チームの一人。ご機嫌伺いの仕事がついてまわる。孫の4人は男の子、言うなら王子

小指くらいの細い竹3本が生えている。
寛文8年(1668)、46歳の入寂、母妙種は前年寛文7年(1667)に亡くなつている。この墓は奈良線で2分されたおかげで線路の向こう側にあるが、最近、鉄道をくぐる地下道が通じ、安心して参拝できるようになつている。
辞世の歌、
鶯の山常に住むてふ峯の月
かりにあらわれ
かりにかくれて
毎年3月18日には、元政忌がとりおこなわれ遺宝展も開かれて

人直筆の大御本尊が祀られ、本仏釈迦如来坐像は胎内に添えた日護上人作の尊像がある。ただ近年、墓地造成のためか竹藪がかなり切られて風情が少々心もとなくなつて

明治の東海道線工事で、北側の番神山古墳(前方後円墳)が削られ、この寺の境内が二分されたという。狭いはずである。
この場所はずもとと極楽寺の薬師堂の跡である。応仁の乱に続いて天文法華の乱と戦乱に続いた時代に藤原基経が創建した極楽寺はずつかり消失していたという。明暦年間(1655~57)に元政上人(1623~67)が草庵を結んだのが始まり。元政は京都一条の生まれで彦

根藩に仕え江戸勤務にもついていたが、26歳の時に京都に帰りかねてから望んでいた出家をしたという。
詩歌にもすぐれ、熊沢蕃山、石川丈山などとも交友が深かった。本堂に掲げてある、寂音堂の額は丈山の書といわれている。元政は、孝養心が篤く、親より早く死ぬことを最も不幸なことと考え、身の養生に心を砕いたという。両親の孝養のひとつに、夏場のやぶ蚊を追い払い涼しい風を送るために藁型団扇を考案した。
元政型深草団扇といわれ、深草「うちわ」の発祥である。
元政の墓は遺言により境内に竹3本を植えただけの簡素な塚であり、近所の人は「本竹」と呼んでいる。今風に言えば、樹木葬であろうか。

京都&東山 ぶらりピカリ

74

七条通

の 条

京都市内の鴨川の七条辺に



原にかけては刑場になっていて、数々の罪人たちが処

七条以外の一つしかない。例・四條(シヨウ)が、七条は、宇ナジヨウヒツシヨウシチシヨウ等呼び名も多い。正式には、京都府道二三号梅津東山七条線が通りの名前。名前だけでなく「通り」には、多くの「顔」がある。東の「どんつき(桑並り)」は「智積院」の山門から西への通名。東山七条には国立博物館三十三間堂。東西本願寺の通りの直近。京阪電車の「七条駅」があり、JR京都駅も極近。近日、JR山陰線の新駅「梅小路駅」も出来て、利便度が最高のアクセスは良い通りだ。その様な「通り」なのに、何故か、注目される度合いは低い。過って京都には、北尊南卑(ホトノナビ)思想があると云われていた。改良工事などは常に上(北)から始まって、下(南)の順番で進められる事を皮肉った言葉だ。お上の御所が千年もの間、北(上かみ)に有ったのだからそれが馴染んでも仕方がないだろう。その、お上が東京へ行かれて、一世紀以上経ても、風習が生き残るのが、京都のホコリ(数カタチ)なのでしようか！。

平安時代末期から明治初期まで、鴨川の河原の三条河原から七条河原にかけては刑場になっていて、数々の罪人たちが処刑されていたと伝えられている。この鴨川の七条辺に「釜が淵」と呼ばれる場所があるそうだ。調べて見たが判らなかつた。上流で石川五右衛門の処刑に使われた釜が三条河原から流れ着いた場所だといふ。その釜は、江戸時代以降長らく法務関係局に保管されていたそうだが、最後は名古屋刑務所にあり戦後の混乱の中で行方不明になった。皮肉った笑い話でなく実話だ。大盗賊故に五右衛門が、処刑された説の他に、豊臣秀吉の暗殺を考えたからという説もあるらしい。処刑される前に「石川や 浜の真砂は 尽くるとも 世に盗人の種は 尽くまじ」と辞世の歌を詠んだといふ。五右衛門の捕縛によりその一族や手下も尽く捕らえられ、京都三条河原にて総勢約20名が「釜茹で」もしくは「磔」にされたとされる。京都は古い町だから案外そんな所から七条付近の格を下げていたの知れない。私の祖父が現在地の東4軒目で、酒屋を開業した大正三年(1914)今や百三歳になった。その頃七条通りが現在の道路幅に拡張され七条大橋も架橋され、市電が開通した。当時は東山区でなく、下京区だった。そして、この界限の都市化が進んだ。私も百三歳まで後20年頑張ろう！。

市電が走った 京都を巡る

78

福田静二

東一条通

HIGASHICHUO

の交差点

東一条通は、東大路通を南下します。今出川通から右折してきた系統も加わって本数が増えます。ここからは左も右も京都大学一色の車窓となります。市電の沿線で、一般の民家・商店が見当たらないのも、ここだけでしょう。

京都大学は、明治二十五年、西の学府として、大学設置の建議があり、明治三〇年、法科、医科、文科、理工科の四分科大学を置く京都帝国大学が、京都の中心から離れた、尾張藩徳川屋敷の跡地に設けられました。今や日本を代表する総合大通り学であり、ノーベル賞受賞者は九人、学生数は二万業生累計は三十二万人を



街路樹並木が美しい
東大路通を行く市電

数えます。左手は石垣の向こうは、設立以来のキャンパスとなる吉田キャンパスの本部構内です。市電時代は、東大路通に古びた煉瓦造りの校舎が残っていました。京大総合博物館などができて、通りから見る風景も変わりました。でもキャンパス内に入ると、今でも学部陳列館や、尊攘堂など、古い建物も多く残されており、各時代の建築の特徴を伝える場ともなっています。いっぽう西側は西部キャンパスと呼ばれ、入学式などが行われた体育館もあります。もとは京都工芸繊維大学の前身、高等工芸学校の校地ですが、同校が市電東山線の敷設による校地削減で現在の校地に移転したため京都帝大に移管されました。市電時代は、和瓦に派手なペイントをした西部講堂が有名でした。そして、まもなく到着するのが、東一条の停留場です。交差するのが東一条通で、東へ行くと、吉田神社への参道があります。節分の際には、多くの露店が出て賑わうのも、この道です。本部構内の正門を入ると有名な時計台があります。我々のような世代には、時計台を舞台に大学闘争が行われたことを思い出しますが、平成十五年に百周年時計台記念館に改装、歴史展示室も設けられ、大学の象徴として知られています。東一条の交差点は、よく見ると、斜めに南西の方角に向かう細い道があります。これが、荒神口を起点として東北角に延びる古道の志賀越えです。道は東一条で途切れますが、それは、幕末期に尾張藩京都下屋敷が置かれて分断されたためです。明治になって、京都帝国大学の用地となりました。その志賀越えが再び道となって現れるのが、市電今出川北白川停留場の付近で、北東部へ向かう道は、山中越えとして生き残っています。東一条の停留場名はバス化後も踏襲されましたが、平成九年に、京大正門前」と改められ、より場所の明確な名前となりました。私は永い人生で京大との関わりは、父親の最期を京大病院で看取ったぐらいですが、京都における京大の存在の大きさを改めて思います。

東大路通を行く市電



何んた坂 こんな坂

個人商店
酒谷本店は、
昭24順調



母さんの家に行く
から」と私を誘っ
て呉れ御幸町の

「父は、当時、木屋町四条下の高級バー「おそめ」の常連。祇園に女性を囲った。その女性の繋がりで、京女近く有った、中村錦之助さん邸宅にも、酒を納入していた。卸酒屋は小売が禁止されており、私の卸業の将来性を危ぶむ意見を入れて、大黒湯の隣でわが親友「政康ちゃんに酒小売免許を取らせ、間接的に小売もしていた。その店が今の株サカタ三 時を幼児の頃に戻す。私は、祖父母に育てられていた。近所や通っていた常盤幼稚園、入学した貞教尋常小学校の友達等は、お母さんお父さんがいるのにと変やなあと思っていた。でも、祖父母が、可愛がってくれ淋しいとは思わなかった。国民学校二年生学期末、祖母に、奥座敷の仏壇前で、「病気で実家へ帰っていたお母さんが、近々、家に戻って来やはる」と告げられた「ほな、お父さんは？」と問い返すと、私が、店の番頭だと思っていた「ヌンメさん」と呼んでいる一郎が「父」だと言われた。その翌日 丁稚の「マーチ」が、「お

屋号「井忠漆屋」に連れてくれた。奥の庭先に回る様に言われていくと、縁側に着物姿の若い女の人が居た。そして「義ちゃんか、大きくなたなあ、お母さんやえ淋しい想いをさせて堪忍え」と言われた。「ワッお母さん」大声で叫び飛びつく様にギョッと抱きしめられた。「母」から、お婆あちゃんと違う良い香りがした。ヤッパリ僕にも「お母さん居たんや」と嬉し涙で顔はしっかり見えなかった。数日後、結婚式。新婚旅行から戻った後は、七条の家で「一緒に暮らした。小学三年生になり「保護者会」に来た母を見て、学友は「お前のお母さんは若いなあ」と羨まし気に言われた。実年齢を誤魔化していたのだ。自動車免許を取る16歳時まで「実母」と思っていた。

熱帯低気圧の名前月三

八月に入ると台風季節になりますね。今、七月二十三日にも既に発生してラジオから「注意ください」とアラウンサーの方が呼びかけています。前線もどんどん南下してきていて、梅雨明けしてもここら中雨となってます。今年には台風が多いのかしら、頼に手を当てて困ってしまいますね。そんな台風にも名前が発表されますね。その名前、決まってるそうです。日本における台風の名前の付け方は「二〇〇〇年にアジア地域全体で共有しているルールに基づいて、一〇〇番まで決められています。名称の一は「インド洋」が命名された「タムレイ」二は「インド洋」が命名された「タムレイ」三は「インド洋」が命名された「タムレイ」四は「インド洋」が命名された「タムレイ」五は「インド洋」が命名された「タムレイ」六は「インド洋」が命名された「タムレイ」七は「インド洋」が命名された「タムレイ」八は「インド洋」が命名された「タムレイ」九は「インド洋」が命名された「タムレイ」十は「インド洋」が命名された「タムレイ」

魔法の時間 Fumiko Kokoku

東山七条出身の
デノオ、フラーパッド
が、地元にかか
る七条大橋を讃
える歌を作ったこ
とを、一般公開
いたします。七
条大橋は、竣工
から50年の鴨川
にかかる最古
の橋です。サカ
タタを以て中心
の魅力を世に広
め、有形文化財
として登録され
ることを目標に
活動されていま
す。七条大橋を
キレイにする会
が、毎月7日に
橋の清掃活動
を行っています
今年で3周年を
迎えました。会
の献身的な活動
は京都市からも
賞賛され、各メ
ディアからも注
目を浴びていま
す。8月の第一
週末には、初め
てのライブも
実施されます。

そうです、台風は名称が変わるのです。発生したところがインド洋でも、一定の地域を超えれば名前が変わるのです。因みに、台風は太平洋西部で発生した熱帯低気圧。語源は意外にもギリシャ神話最大の怪物テュホンからきています。他にもリリケーン、サイクロン、ハリケーンは毎年日本のメディアでも騒がせます。大西洋北部、太平洋北部、太平洋中部で発生した熱帯低気圧のことを指します。台風、ハリケーン、サイクロン、名前の違いは発生した場所、決まるという何ともシンプルな理由です。尚且つ、一定の地域を超えれば名前も変わってしまうという、国が変われば呼び方が変わるという感覚でした。さて、台風シーズです、雲行きに注目して気をつけながら生活していきましょう。今年の六月は、前半が晴れ、二十日の夜から二十一日の昼にかけて大雨になりましたね。次の日からは、朝は曇るものの雨は降らず、昨夜のことは梅雨の雨だったのか、それとも台風だったのかと頭を傾けてしまいます。そんな日々です。新聞を開きますと、必ず天気図を見ま

「ミュージシャンとして世に役に立てるところがある」とすれば、それは音楽で思いを伝えることにつきます。当初は七条大橋をキレイにする会に捧げる目的で作った歌ですが、これを有効利用する。とができないかと考え、会とも相談した結果、会のメンバーとともにミュージックビデオを制作し、それを動画投稿サイトに公開することにしました。折しも、七条大橋のライトアップイベントの点灯式にフラーパッドもお誘いいただいたので、この場で、七条大橋の上には動画を演奏させていただけ、これに合わせ動画も公開しようと考えています。2008年という長い歴史の中で、この街を、地域の人々を見守ってきた七条大橋。今、時間という魔法が、この橋に新たな彩りを添えます。フラーパッドもほんの少しですが、そのお手伝いをさせていただきます。東山七条出身のアコースティックデュオ、フラーパッドが、デビューをさせていたのは2008年5月。皆様の温かい「声援をいただき、来年は十周年を迎えます。十年一昔とはよく言いますが、フラーパッドもこの十年で大きく成長をしました。

編集後記

▽なんな
坂一欄を設け、83歳の編集者の自序伝風の文を書き出しました。今まで、変化の多い生き様を記す予定です。

▽私は父16歳、母14歳時に生まれました。乳呑児時に実家に戻り、私は父の長男で戸籍届けをされました。
▽母の実家も酒屋。子沢山で、口減らして、我が家のお手伝いに来ていた様です。祖母没後私の臍の緒が出て来ました。
▽それには祖父喜一郎の一字「喜郎」と書かれています。が、戸籍届けは父一郎の長男「義郎」でされていきました。ある方の忠告でそうなったのでしよう。
▽小学二年歳の頃、祖父の妹と一緒に、錦のスター食堂で食事をしました。知らない知らない女の人大勢「一緒でした」。
▽私の真隣の女の人が、どこか行く送別会だった様です。その方が私の手を痛いほど強く握るので、困りました。
▽40余年後、それが横浜に嫁いだ我産みの母「だつた」と知りました。以後、その一家と、親しく交われようになり生母の死に目にも立ち会いました。

